

体育グループ

★授業の概要★

○対象授業

中学部 球技「サッカー」

○対象生徒

中学部 2年 教育課程Ⅱ・Ⅲ（5名）

○授業のねらい

- ① オフェンスとディフェンスの役割を理解することができる。
- ② 味方にドリブルやパスをすることができる。

1 授業作りについて

授業評価の視点	内容
物理的環境支援	<ul style="list-style-type: none">・パスを出す相手や、ドリブルのスタート位置などが視覚的にわかるように、コーンを設置する。・補助具の使用。
補助的支援	<ul style="list-style-type: none">・実態に応じて歩行器を使う。
人的支援	<ul style="list-style-type: none">・生徒が注目しやすい場所で合図を出す。・過度な支援は行わず、自発的な動きを引き出すような関わりをする。
学習機会	<ul style="list-style-type: none">・見通しをもてるように、順番、回数、道具等を視覚的に提示する。
多様な評価	<ul style="list-style-type: none">・お互いに活動を見合ったり、ミニゲームをして勝敗を競ったりする。

2 授業改善

- ★ドリブルとパスのコースを一本化した。
- ★OFとDFに分かれてゲーム性をもたせた。
- ★ビブスをつけた。
- ★補助具をつけた。
- ★BGMをかけた。



3 まとめ ～成果～

授業評価の視点	内容
物理的環境支援	・ 正面にパス相手がいると、 ボールと相手の両方を見て動く ことができた。
補助的支援	・ 補助具の設置で、 ボールのコントロールが容易 になった。
人的支援	・ 指示をMT、代弁をSTが行い、 良い雰囲気 を作ることができた。
学習機会	・ OF、DFに分かれることで、 学習意欲 を引き出すことができた。
多様な評価	・ 学習前にねらいを提示することで、本時で 頑張ることを意識 できる生徒がいた。

4 まとめ ～課題～

★コロナ禍における、**場所**や**道具**の調整。

★学習指導要領にある「**楽しさ**」の評価の曖昧さ。